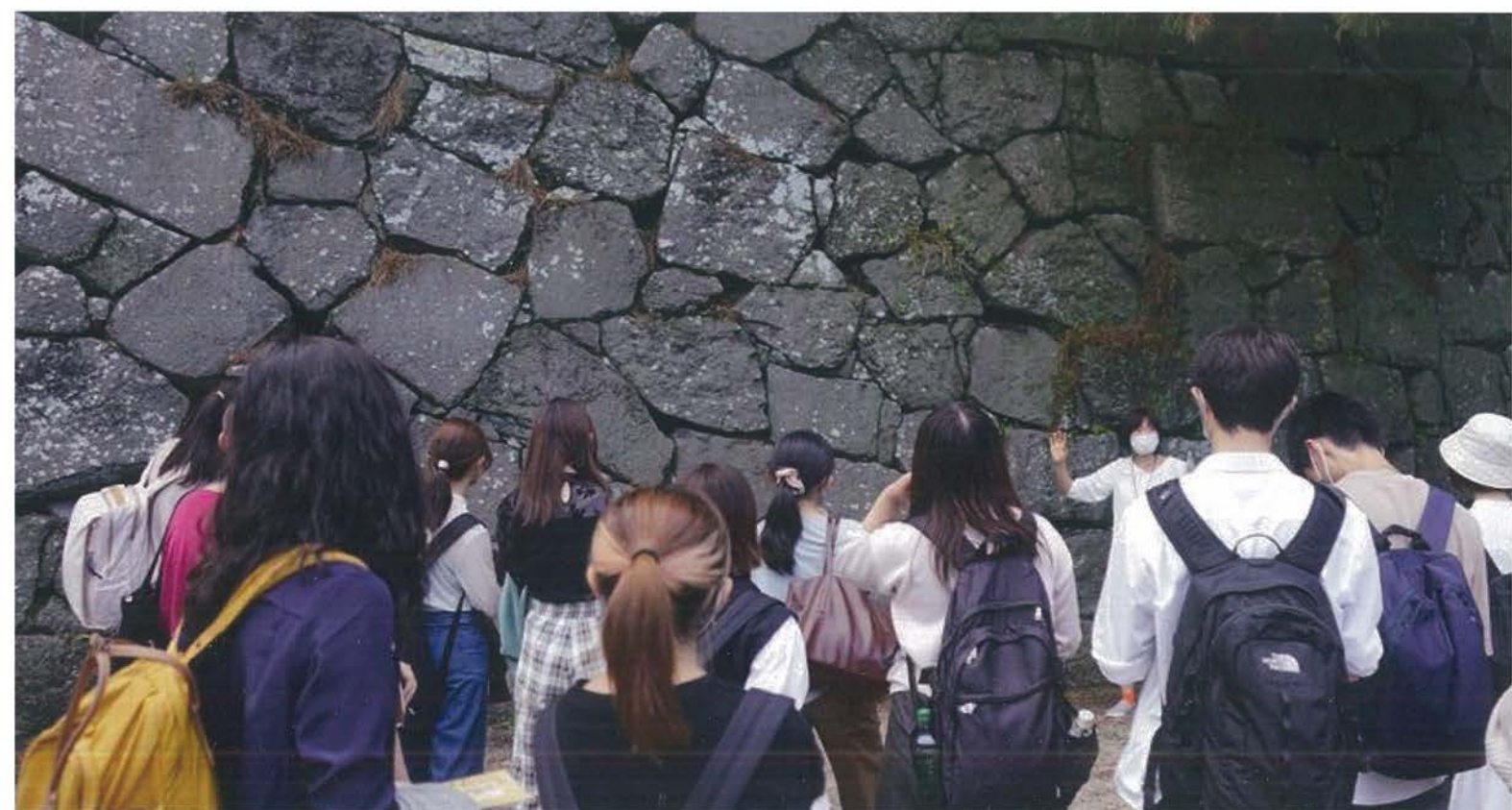




# 名古屋城の魅力を発信する

名古屋市立大学 地域連携参加型学習

2022





# はじめに



名古屋市立大学の教養教育科目「地域連携参加型学習」は、学生が教室から外に出て、地域の課題に触れ、地域の人々と連携しながらその解決について考えることを目的としたものです。また経済学部、人文社会学部、芸術工学部の学部生が学部の枠を超えて、ともにフィールドに出て調査をし、プレゼンテーションにまとめるという特色があります。そして、以上のような学習活動を通して、地域に貢献することを目標としています。

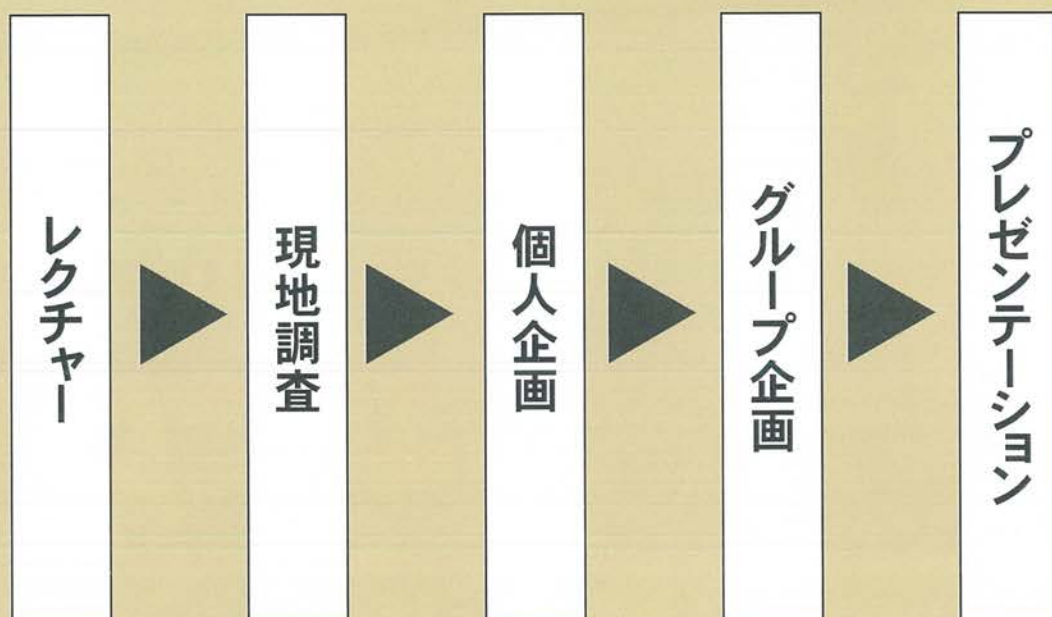
今年度私が担当した授業では、地域の文化財の保存や活用の方法について、名古屋市の現状を把握し、自由な発想で新たなプランを立案することを目指しました。具体的には、国内屈指の城郭であり、尾張徳川家の居城であった、名古屋市を代表する文化財としての国の特別史跡名古屋城跡に着目し、レクチャー、現地での調査、グループワークにより、名古屋城の魅力を広く発信するための事業（イベント等）を考えるというものです。この授業を履修した学生は、まずレクチャーや、現地での調査成果をもとに個人による企画をまとめ、そこから学生相互の審査により選ばれた5つの企画をグループワークによりブラッシュアップしました。

この小冊子は、以上のような授業の概要と、学生が立案した事業のプランをまとめたものです。それぞれのプランの説明はグループワークで立案した学生自身が執筆したものです。非常に限られた時間のなかでまとめられたプランですが、いずれも授業のなかで学んだ成果を活かし、それぞれが発見した名古屋城の魅力を、多様なアプローチで発信しようとした意欲的なものばかりです。これらのプランが少しでも地域への貢献となれば幸いです。

最後になりましたが、ゲストスピーカーをお引き受けいただいた、秋田人形道祖神プロジェクトの小松和彦さん、宮原葉月さん、そして名古屋城での見学やレクチャー等多大なご協力をいただいた名古屋市観光文化交流局名古屋城総合事務所管理活用課の吉田祐治さん、西浦志乃さんに心からお礼を申し上げます。

2023年2月28日  
名古屋市立大学大学院人間文化研究科 佐藤美弥

## 授業の流れ





## ①文化財の保護とは 10/3 佐藤美弥

授業を進めるにあたって、文化財の保護とは何かについて、文化財保護法や名古屋市の条例などを紹介しながら、文化財保護が文化財の保存と活用を両輪として成り立っていること、文化財保護の歴史と近年の動向などについて講義しました。また、プランの立案にあたって、企画書を作成するという方法で進めていくことなどについて説明しました。

## ②名古屋城の活用について

10/10 名古屋城総合事務所管理活用課(吉田祐治さん、西浦志乃さん)

名古屋城の魅力発信について考えるため、名古屋城とはどのような文化財(史跡)なのか、名古屋市の職員の方々はその中で、とくに活用を目的にどのような事業を企画・運営されているのかを理解することを目的として、名古屋城跡の見学、活用事業に関するレクチャーをいただきました。

まず、正門から、西之丸、二之丸、本丸と、名古屋城の見どころや文化財としての価値を解説していただきながら城内を見学しました。復元された本丸御殿は自由見学としました。その後、本丸御殿孔雀の間で「名古屋城の活用について」と題したレクチャーをいただきました。レクチャーでは、名古屋城の歴史、本丸御殿の復元事業、史跡や文化財をめぐる状況との関係における名古屋城の活用についてといったトピックについてお話しいただきました。



### 学生の感想から

講義のなかの「とっておいた文化財」を「とっておきの文化財」に、という言葉にとっても関心を持ち、名古屋城の魅力が余すことなく伝えることができるような活用方法を考えていきたいなと思いました。

## ③無形民俗文化財の魅力を発信する

10/17 秋田人形道祖神プロジェクト(小松和彦さん、宮原葉月さん)

文化財の魅力を発信するためのヒントを得るために、地域の民俗文化財に着目したプロジェクトについてのオンラインレクチャーをいただきました。ゲストスピーカーにお招きしたのは「秋田人形道祖神プロジェクト」の、郷土史研究家小松和彦さんとアートクリエイターの宮原葉月さんです。秋田県内に残る、村(集落)の入口にワラでできた災いを防ぐための人形を祀る民俗行事である「人形道祖神」に着目し、県内各地の行事を取材して、書籍(『村を守る不思議な神様 永久保存版』KADOKAWA、2021年ほか)の発表、グッズ製作、トークイベント、展覧会への出品など活動を広げているユニットです。小松さんには、「人形道祖神」の概要や愛知県の民俗との関係性などについてお話しいただき、宮原さんには、人形道祖神のリサーチの方法や、リサーチの成果を美術館展示に活用した事例などについてお話しいただきました。



### 学生の感想から

いろんなところから、御二方の熱い気持ち伝わってきた。文化財の保護にあたり、まずはその文化財とそれに関わっている方々を敬愛し、徹底的に調査をしてよく知ることの重要性を改めて実感した。



## A班

## 着物で巡る、名古屋城の紅

現在名古屋城では、本丸に多くの注目が集まっていますが、魅力がある庭園や御深井丸には焦点があまり当てられていない。実際に訪れてみても、本丸には行列が出来ているが、庭園には人がまばらだった。そこで、好きな着物を選んで着付けてもらい、城内を巡るといふ非日常を味わうことのできるプランを名古屋城で行うことを提案する。このプランでは、着物体験と共に名古屋市内の小学生が作った行灯を庭園に展示することや、フォトコンテストも開催する。これらにより、普段着物を着るといふ体験をしたくても、忙しくて着ることが出来ない女性に、着物と共に美しい自然と写真を撮るといふ体験が出来る場を提供することが出来る。また、屋外に子供の行灯を展示することで、コロナに関係なく子どもや孫の作品を見に行くことが出来る。そして、名古屋城全体に人が訪れるようになることに繋がるだろう。

事業の概要としてはまず、来場者への着物の貸し出しを100着ほど準備し、着付けの専門スタッフを雇う。着付け場所は正門入ってすぐのスペースを想定している。着物の小物として名古屋市の伝統工芸品である有松絞を用いたいと考えている。次に、城内をめぐるルートについてはルート上に行燈とフォトスポットを設置、行燈は名古屋市内の子供たちに制作を依頼し色も多彩に用意する。ルートは一つに制限する。理由としては来場者の誘導がしやすく、企画側の見せたいものを明確にできるからである。フォトコンテストの開催を予定しており、春や秋の名古屋城の美しさを宣伝できるのではと考えている。名古屋城の公式サイトに写真を投稿してもらい、名古屋城の関係者が審査をするという形式を想定している。

スケジュールに関して、春と秋に行うことを想定した。秋に行う場合、6月から10月の末までは事前の準備となり、6月には早めに着物の貸出店など協力店に交渉する。7月には名古屋市内の小学生に行燈づくりをしてもらい、10月に名古屋城内に設置する。また、8月から10月には、大学生ボランティアを募集し、事前説明会を行う。その後、11月の土曜日と日曜日に着物イベントを実施する。11月から12月中旬まではフォトコンテストの投稿受付、選考、グランプリの発表を行う。その間の11月30日には行燈や会場の回収や片付けをする。春に行う場合、内容は秋と同じで、時間は12月から5月までに行う予定だ。

このイベントの期間は二ヵ月として、3月15日から4月15日と11月の土日に開催しようとしている。場所は名古屋城内で、普段着物を着るといふ体験をしたいけど忙しくて着ることができない女性たちをターゲットとしてこのイベントを行う。

経費に関して、着物レンタル料は一着4000円として100着を準備する。行燈は1000個を作る予定で、すべての材料を含めて10-15万円ぐらいとなる。そのほかのフォトスポットや和菓子などの費用は30-50万を想定している。



二之丸庭園 A班撮影



発表会でのA班のプレゼンテーション



この企画を開催する目的は、「城攻め」を通じて名古屋城の守りの固さを学んでもらうことにある。名古屋城は徳川家康の命令によって西国大名 20 家の手によって築城された(公儀普請)、全国でも有数の規模を誇る近世城郭である。城内には、天守や本丸御殿だけでなく櫓の石落としや鉄砲狭間、藩主の脱出のための埋門など、有事に備えた様々な防御設備が施されている。また、名古屋の街も築城にあわせて当時の尾張の中心地・清須から街が丸ごと移転することで形成された(清須越)。このような設備の役割や名古屋の街の歴史を学んでもらうことで、名古屋城および名古屋の歴史を体感し、興味を持ち、再び訪れてもらうことで地域の活性化を図りたい。

この事業は、QRコード読み取り型クイズラリーである。小学生高学年以上(それ以下でも保護者同伴なら可)をターゲットとし、名古屋城正門内で行う。期間は、常時開催としたい。アプリをダウンロードし、名古屋城内に設置された QR コードを読み取ることで、クイズに参加することができる。クイズを解くことで、参加賞を手に入れることができ、クイズに正解することで懸賞に応募することができる。クイズラリーのルートは、東門をスタートし、南蛮練堀、埋御門跡、東南隅櫓、旧二之丸東二之門を通り、本丸にたどり着くルートと、正門をスタートし、西南隅櫓、本丸表二之門、西北隅櫓、不明門を通り、本丸にたどり着くルートの 2 種類を予定している。

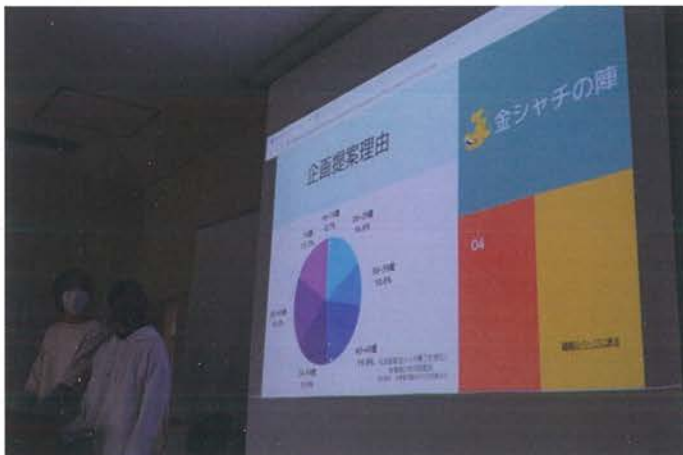
名古屋城は「歴史の専門家が選ぶ 難攻不落!最強の城総選挙」で 7 位だったが、天守閣の美しさの方が注目される。そこで、美しさと守りの固さを兼ね備えた部分を魅力として発信することが重要だと考えた。城の内外の守りの固さに関するクイズを出題する。2 択が用意され、解答が解説とともに表示される。例題は「Q 天守閣に向かって行軍している!表二之門が現れた!鉄砲や重火器を兼ね備えている!この門を突破するのが、天守閣への近道だ!」。「1.突破する!2.突破しないで、他から攻める!」から選択する。解答は「2.鉄壁の鉄門と呼ばれ、防弾性や防火性に優れている。武器が通用しない可能性が高いから。」になる。実際に攻める感覚が味わえる。

参加者は景品をもらうことができる。景品はゴールしたルートの数によって変化する。東門をスタートするルートと正門をスタートする二つのルートのうち、どちらか一つのルートをクリアした場合にはボールペンやクリアファイルなどの参加賞を全員がもらうことができる。また、両方のルートをクリアした場合には名古屋で使うことのできるクーポン券や商品券などの豪華賞品が当たる懸賞に応募できる。

スケジュールは、まず既存アプリ“furari”の活用を模索し、クイズの作成及び QR コードの設置場の確保をする。その後参加賞・景品の調達、イベントの PR を兼ねた物品の作成 or 市販の物品の調達をし、イベントを実施、反省・課題解決という流れとなる。

#### 参考文献一覧

- ・城びと「速報!【1位~10位編】「歴史の専門家が選ぶ 難攻不落!最強の城総選挙」ベスト 20 の順位結果発表!」<https://shirobito.jp/article/1665>(参照 2023.1.12)
- ・城びと「城歩き編 第 43 回 陰籠と下見板張」<https://shirobito.jp/article/1442>(参照 2023.1.12)
- ・名古屋城公式サイト「名古屋観る」<https://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/guide/nagoyajo/>(参照 2023.1.14)



中間報告での B 班のプレゼンテーション



フライヤー B 班作成



C班

## 非日常を味わう茶会

～名古屋城野点会&名古屋城大寄せ茶会～

私たち C 班は「非日常を味わう茶会～名古屋城野点会&名古屋城大寄せ茶会～」というイベントを提案する。

この企画の目的は、名古屋城の客層として薄い若年層が名古屋城を訪れるきっかけをつくること、普段は一般公開されていない名古屋城内の4つの茶室を活用して、歴史ある名古屋の茶文化を発信することの二つである。

このイベントは野点会と大寄せ茶会という2種類の茶会から構成されている。

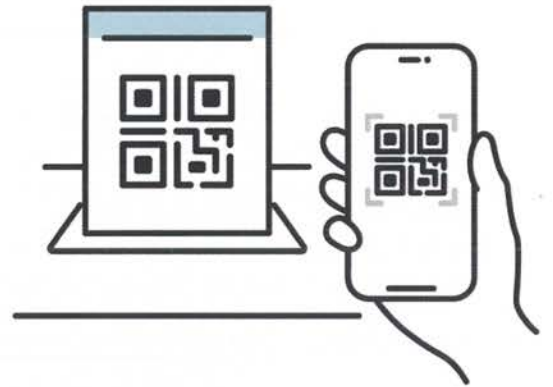
野点とは屋外でお茶を楽しむことであり、作法に縛られず気軽にお茶を味わうことができるのがその特長だといえる。この野点会では、お茶菓子として「なごや菓八菓」などの名古屋にちなんだ和菓子を中心に販売することと、会場を二之丸広場に設定することによって、名古屋の銘菓と、名古屋城の天守閣・本丸御殿以外のスポットの知られざる魅力を伝えることを目指す。また、開催時期を春と秋の夜間開放期間内に定めることで、桜や紅葉、夜間のライトアップ等の「映える」景色を若い世代の客に提供する。

一方で大寄せ茶会は、茶室で亭主のお点前を見ながら厳かな雰囲気のもと行われる。このイベントでは松尾流をはじめとする名古屋の主な4つの流派の亭主を御深井丸にある茶室に招き、客にいくつかの茶室をまわってもらうことでそれぞれの流派の違いを体感してもらう。由緒ある茶室での本格的な茶道体験は、名古屋の茶道の奥深さ、名古屋城内の茶室の素晴らしさを実感してもらうのに最適であるだろう。

E班

歩く・学ぶ・食べる!

## ARスタンプラリー



私たちの提案する企画は、名古屋城内6カ所に設置したQRコードを参加者にスマートフォンを使用して読み取ってもらい、端末内に表示されるスタンプラリーを完成させると共に、名古屋城に関する歴史を学ぶことができる動画を視聴することができるというものが主な内容である。さらに、スタンプラリーを完成させることができた参加者には金シャチ横丁で使用できるクーポンを配布する。スマートフォンを最大限利用するため、写真撮影が可能なカメラエフェクト機能を作成することも見当した。ターゲットはスマートフォンを利用できる若者や家族連れ、参加費は無料、開催日時は観光客の増加が見込める長期休暇期間を予定している。

開催目的は、スタンプラリー形式にすることで観光客の方に名古屋城内を楽しく巡りながら、城内に残る様々な遺跡についての知識を学んでもらうことである。また、スタンプラリーを完成させた際の金シャチ横丁で使用できるクーポンの配布により、参加者の名古屋観光をより充実させると共に、金シャチ横丁の売上増加を目指して名古屋城の保存にむけた活動費用に貢献する。

QRコードの設置場所は、名古屋城内で特に有名である天守閣や本丸御殿だけでなく、あまり観光客が集まらない場所(御深井丸、二の丸など)にも分散させている。これは城内の観光客を分散させ、混雑緩和を図る目的である。また、写真撮影機能を充実させることで参加者によるSNS投稿を促し、名古屋城についての情報発信を狙う。



名古屋城内及び外周をコースとしたジョギングによって、名古屋城の魅力を伝え、周辺地域の活性化を図ることが目的である。

ジョギングの企画には、二つの利点がある。一つは、スポーツツーリズムが地域活性に良い影響を生み出している点だ。例として、2022年の北海道マラソンの経済効果はコロナ禍でありながら、26億円という結果を挙げた。もう一つは、大阪城熱マラソン、熊本城マラソンを代表例とし、名城とスポーツイベントを組み合わせた企画が既に存在するため、一般に浸透しやすい点だ。

具体的な企画内容は、開催を桜や藤の開花時期の一日とし、定員は500人、参加費は2500円だ。小学生以下の参加費は無料であるほかお菓子を特典とし、大人は金シャチ横丁で使える1000円分の金券を特典として還元する。また、当日も一般入場枠を取り消さず、更に愛知県体育館周辺の駐車場に出店の誘致も行う。

コースは、正門からスタートし、城内を通り東門から抜け、外周を周り、正門からゴールの天守閣を目指す。全長約2.5km、休憩所を3つ設置することで、休憩所を利用した写真撮影など個々のペースでのジョギングを可能とし、参加の敷居を低くして幅広い参加者を募ることが目標だ。名古屋城外周の歩道は一部狭いため、当日は道路規制を行うほか、ゴールである天守閣前の広場を中心に移動ルートの固定化を行うことで、安全で効率的な運営を行うのだ。

大会後は、純利益を使った名古屋城の保存や金券によるリピーターの増加などの効果が期待できる。



D班撮影



ジョギングコース

Maps Data:Google, ©2023 CNES/Airbus, Digital Earth Technology, Maxar Technologies, Planet.com

個人企画で提案されたプランにもすぐれたものがたくさんありました、ここではタイトルのみを紹介します。

## 個人企画 タイトル一覧(順不同)

まだ知らない名古屋城を発見しよう！～すごろく PON!PON!ラリー～ / 名古屋城の植物で観光客を増やそう！ / チャンバラ合戦 / NFS (名古屋フラッグシップスクール) / 名古屋城こどもスタンプカード抽選会 / 名古屋城侵攻作戦で商品ゲット！(仮) / 名古屋城に新しい観光方法を / 名古屋城を知る / 名古屋城フォトコンテスト Uber でインスタ映え！？ ～インバウンドの増加を目指して～ / 石垣めぐり ～名古屋城をもっと知ろう～ / 名古屋城で食べ歩きをしよう！！ / 石 N 石 / RPG ゲーム『NAGOYA 城』および連動企画 / 名古屋城フォトラリー / 食と絶景で楽しむ！名古屋城 / 魅力を発信！名古屋城フォトコンテスト / 春の名古屋城 ジョギングの会 / 着物で巡る、名古屋の紅 / 逃げた藩主を追い！ ～名古屋城脱出ゲーム / 広報の力で名古屋城を日本のランドマークに / 名古屋城で有松絞り / 魅力発見！名古屋城フォトコンテスト / 名古屋城探検クイズラリー(仮) / 名古屋について学ぼう ～名古屋城を出発点に～ / 歩く・学ぶ・食べる！ AR スタンプラリー / いざ名古屋城へ / 手作り体験から文化財への関心を得る / 金シャチの陣 / 名古屋城 photo オリンピック



■ 名古屋城の魅力を発信する  
名古屋市立大学 地域連携参加型学習 2022

■ 編集・発行 名古屋市立大学 佐藤美弥研究室

■ 発行日 2023年2月28日